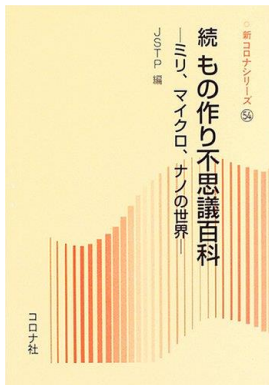


図書推薦

白石 光信（機械工学科）



『続 もの作り不思議百科 ーミリ、マイクロ、ナノの世界ー』

JSTP 編：コロナ社

“ものづくり”・・・最近良く耳にする言葉です。皆さんは“ものづくり”が私たちの便利で豊かな生活を支えるみなもとであることを実感しておられますか？携帯、パソコン、自動車、掃除機、冷蔵庫など私たちの身の回りには暮らしを便利にし豊かな気持ちにさせるものが氾濫しています。皆さんはこれらのものがあるのは当然とっていませんか？皆さんが日常的に無意識に使っているこれら多くのものは、先達が長年に亘る努力の結果として築き上げた高度な“ものづくり”技術を用いて作られたものです。もしこの技術がなかったら今の豊かさはなかったかもしれません。

“ものづくり”技術には、材料を刃物によって削ってものの形を作る技術（機械加工）、材料を型に入れて圧縮することによって希望する形に成形する技術（塑性加工）、など多くのものがありますが、これらの技術は現在も日々進歩しております。同時に、これらの技術を使って“ものづくり”をするための加工機械も年々高度化してきており、今日では複雑な形状のものを一つの機械を用いて高い精度で作ることが可能になってきています。時代の変遷は、熟練技術を持った職人の腕に頼った“ものづくり”から、CAD（Computer-Aided -Design）ソフトを使ってものを設計し、CAM（Computer -Aided-Manufacturing）ソフトを使って加工経路、加工工具などを決定した後、これらのデータを加工機械に入力し機械を稼動することによって自動的にものを作る、コンピュータ援用形の“ものづくり”への転換を急速に推し進めています。しかし、このような技術の進歩は逆に“ものづくり”に対する意識の低下を招く原因になっています。私たちが豊かな生活を堅持するためには、ものを生み出すみなもとである“ものづくり”の重要性を強く認識することが必要ではないでしょうか。

この本は、“ものづくり”の面白さ、不思議さを私たちに実感させてくれる本です。私たちの身の回りにある“もの”に対する見方が変わるかもしれません。是非一読されることをお勧めします。